

「中学生の税についての作文」優秀作品表彰

— 受賞作文から2点をご紹介します —



「歯医者にて…」

富士見中学校3年
五味 慶真

僕は、最近虫歯が出来た。早く治療してもらおうと歯医者に行った。父と母は二人とも仕事があり、送っていけないので、保険証と診察券、それと一万円を渡してもらい歯医者に向かった。何度か来たことがあったので、道に迷うことなく到着し、治療してもらった。会計をするために、一万円札を取り出して待っていると「今回の治療費は、五百円になります。」と言われた。僕は、心の中でとても驚いていた。今までは、だいたい二千円や三千円くらいだった。今日もだいたいそのくらいだと思っていたら、たったのワンコインだったのだ。おつりは、九千五百円も返ってきた。しかし、驚いたのはこれだけではない。「また来週来てください。次回からは無料になります。」と言われたのだ。今まで、もちろん歯医者の料金が無料なんてことは見たことも聞いたこともなかった。なぜ僕が払ったお金がたった五百円になり、無料になったのか。それは、僕が払わないかわり

に、税金が払ってくれているのです。税金は、日本の国民が少しずつ出しあい、生まれるお金です。そのお金で、治療費を負担してもらったのです。

僕の住んでいる富士見町では、高校生以下の自己負担が減るというニュースを新聞かテレビで聞きました。長野県他の市町村の中では、高校生までの自己負担がなく、病院に行き、診てもらっても無料というところもあります。診察費や、治療費をすべて自己負担するところでも大変なことになります。このニュースを知ったときは、税金というものの重要さを学ぶことができました。僕は、小学校のとき、消費税が5%から8%に上がる時、なんで税金が上がるのか。増える必要なんてあるのか。と思ったことがあります。しかし、日々のこういう体験や、租税教室などを通して、税金はとても大切なもので、みんな払わなければならない理由というのを、肌で感じることができました。

世界の中では、消費税が二十七%もある国があるそうで、その分街の設備や公共サービスが行き届いているということがテレビで見ることがあります。税金があるおかげで私達は不自由なく暮らせています。しかし、消費税を10%に上げるのに反対している人もいます。税金が高すぎても困るし、低すぎても困ります。そこらへんのかねあい、とても難しい問題です。普段から世間の話題に目を向けて生活したいです。



「思春期と税金と私達」

富士見中学校3年
折井 日向子

私達は日々、たくさんの感情を受けながら生きています。幸福も不幸も絶えることの無い波のようになり返し感じ取りながら生活している。今、長い人生の中でも特に多感な時期だと言われる歳になった私は、そんな喜怒哀楽を日常的に感じられることにとっても感謝している。私は昔から体が弱かったため、一年間に何度も病気にかかり、その都度病院に通い、診てもらっていた。私達は税金によって病院で治療を受ける際に、多額の治療費を払わなくても医師に診てもらえることができる。この制度があったおかげで私も、そして私と同じように病気がちだった弟も今健全な心と体で学校に通うことができている。もし、この制度が無かったら一度の診察にお金がかかり過ぎてしまい、私も弟も診察を受けることができず、健康に過ごすことができなかつただろう。もしも治療費の

免除だけでなく、税金自体が無かつたとしたら…。学費は高くなり、病院どころか学校にも通うこともできず、学ぶことができなまま、最悪病で命を落としていたかもしれない。そんなことを考えると、税金という制度はとても重要なものだと考えさせられる。治療費だけでなく、学費も親の給料までも税金と関わりが深い。それ以外にも私達の周りは税金によって成り立つものがたくさんある。もし税金が無くなってしまったら、私達はきつと普通の、平和な生活ができなくなってしまうだろう。きつとお金をかせぐことで精一杯になりすぎて、思春期を迎えても私達は感情をたくさん受け取ることができなかつただろう。つまりは、税金が無かつたら、私は今こうして大人になるための大事な時期を正常な心と体で越えていくことができなかつたかもしれない。私は税金によって助けられ、今も税金に支えられて生きています。そして税金を払うことで誰かを助けながら日々を歩んでいる。私自身、税金によって学ぶことができ、健全な思春期をむかえられたことに感謝して、税金を払うことを面倒くさがらずに、これから先もちゃんと納税していきます。